

RIMS 2010 年次大会報告

Conference Report: RIMS 2010 Annual Conference & Exhibition

はじめに

リスクマネジメントに関する世界最大規模の会議である RIMS(Risk and Insurance Management Society, Inc.) の 2010 年次大会が、4 月 25 日(日)から 29 日(木)の 5 日間の日程で開催された。

今年は、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンのボストン・コンベンション・アンド・エキシビション・センター (Boston Convention and Exhibition Center) で開催された。今回は、RIMS の設立 60 周年を祝う記念すべき大会でもある。今年のメインテーマは「Think Forward, Think Risk」である。アメリカ合衆国およびカナダを中心に、世界各地より企業・団体のリスクマネジャーや保険会社、保険ブローカー、監査法人、リスクコンサルティング会社などから約 9000 人が集まった。

本号では、この RIMS 2010 年次大会について、展示会とセッション (カテゴリ別のセミナー) の様子を中心に報告する。

1. RIMS とは

昨年の本誌第 1 号¹でも説明したとおり RIMS は 1950 年に設立されたニューヨークに本部を置く非営利団体であり、今年で設立 60 周年を迎える。リスクマネジメント実務の発展を目的として、情報提供や、教育、ネットワークの場の提供、業界団体としてのロビー活動などを行っている。もともとは企業などの保険購入担当者の情報交換のために設立された組織であったが、1970 年代半ば以降、その対象をリスクマネジメント全般に拡大している。

会員数は 10,000 人以上にのぼり、活動の基礎単位となる支部は、米国内に 68、カナダに 10 が設置されているほか、メキシコと日本にも支部が設置されている。

なお、日本ではリスクマネジメント協会²が RIMS の日本支部の役割を担っている。同協会でも、日本国内で毎年春と秋、独自に年次大会を開催したり、大学で寄附講座を運営するなど、リスクマネジメントの普及に努めている。



図 1 ボストン・コンベンション・アンド・エキシビション・センター (筆者撮影。)

¹ 荒木由起子, 2009, 「RIMS2009 年次総会報告 リスクマネジメントに関する米国最大規模の会議」『SJRM リスクレビュー』1 (<http://www.sjrm.co.jp/riskinfo/images/pdf/r01.pdf>)

² <http://www.arm.gr.jp>.

年次大会は毎年4月から5月ごろに開催されており、多数のセッションと大規模な展示会を中心に、優秀なリスクマネジャーに対する「リスクマネジャー・オブ・ザ・イヤー」の表彰、著名人を招いての基調講演などが行われる。また、年次大会はリスクマネジメント関係者同士のネットワーキングの場としても位置づけられており、レセプションや昼食会などの場を通じて情報交換を行うことが推奨されている。

2. 展示会

RIMS 年次大会では、次節で説明するセッションのみならず、展示会も重要なイベントの1つとして位置づけられている。展示者はビジネスチャンスを見つけるため、参加者は情報収集やビジネスパートナー探しを目的として、商談や情報交換が行われる。

展示ブースは、全体で400以上が設置されている。保険会社、保険ブローカー、監査法人、リスクコンサルティング会社のほか、キャプティブ³を誘致するために、国や地域の公的機関からも出展がある。なお、出展の多いカテゴリは表1のとおりである。ここに掲げた出展数の順位は毎年おおよそ同様であるようだが、個人的には、日本の同様の展示会では少ない労働災害補償や医療関連のリスクマネジメントサービスの展示数が多いことが印象的であった。

出展者は、サービスの買い手である多数のリスクマネジャーが集まる場ということもあり、ボールペンやメモパッドなどのノベルティ、あるいは食べ物や最新のタブレット型コンピュータの抽選権などで参加者の気を引こうとしていた。

このように、展示会は商談につながる場である一方、情報交換の場としても有益である。筆者は参加したセッションのスピーカーや同業者とお互いの国の企業におけるリスクマネジメントの状況について情報交換することができた。

表1 出展の多いカテゴリ(但し、重複あり。出典：RIMS 2010 Annual Conference & Exhibition, Conference Programを基に作成。)

	カテゴリ	出展数
1	労働災害補償関連サービス	100
2	クレーム関連サービス	65
3	コンサルティングサービス	55
4	リスク/ロスコントロール/安全サービス	53
5	コンピュータソフトウェア	50



図2 展示会の様子(筆者撮影。)

³ 企業が自社の保険契約を引受対象として設立する保険子会社。キャプティブを積極的に誘致している国・地域はキャプティブ・ドミサイルと呼ばれ、英領パミューダ、英領ケイマン諸島、米国バーモント州などが有名である。

表 2 カテゴリ，レベル別に見たセッション数

(出典：RIMS 2010 Annual Conference & Exhibition, Conference Program を基に作成。)

	初級	中級	上級	超上級	合計
クレームマネジメント	2	6	2	0	10
雇用関連リスク	3	0	1	1	5
ERM (Enterprise Risk Management)	2	9	6	2	19
リスクファイナンス	4	2	2	1	9
業界別リスクマネジメント*	-	-	-	-	19
保険とリスクマネジメント	4	8	1	2	15
国際的リスク	2	5	0	1	8
法律・規制関連リスク	0	5	0	0	5
ロスコントロール	2	6	1	0	9
その他リスクマネジメント	5	17	2	1	25
合計	24	58	15	8	124

* 「業界別リスクマネジメント」にはレベル設定なし。

3. セッション

セッションとは、企業・団体のリスクマネジャーやリスクコンサルタントらによりカテゴリ別を実施されるセミナーである。雇用関連リスクやリスクファイナンス、保険など、分野別のセッションのほか、ヘルスケア、公的機関、運輸、小売、エンターテインメントなどの業界別のリスクマネジメントについてのセッションも設置されている。カジノ運営企業のリスクマネジメントをテーマとしたセッションが設定されている点は、いかにも北米らしいところである。

セッションは、レベル別にも分類がなされており、大学でリスクマネジメントを専攻する学生やリスクマネジメント実務の初任者が基本的な知識を吸収できるように配慮がなされている。なお、表 2 に掲げた以外にも、初めて RIMS に参加する人向けのセッションも設置されている。

ここ数年、セッション数は減少傾向にあったが、今年前は前年とほぼ同数が開催された。セッション数などの開催規模に比例して会場が非常に広いため、各セッションの会場間の移動には 10 分程度かかることも少なくない。こうした規模の大きさは、北米地域では日本に比べてリスクマネジメントに携わるビジネスパーソンや研究者が多いことの証左といえるだろう。なお、余談であるが、各セッションではプレゼンテーション資料は配布されない。その代わりに、事前に RIMS の参

表 3 主な ERM 関連セッション

- メキシコにおける2009年インフルエンザH1N1
その教訓
- 経営におけるリスクの可視化 企業リスクの特定方法
- 効果的なERMフレームワークの構築
- ラテンアメリカにおけるERM
- ERMの工具箱
- ガバナンス、リスク、コンプライアンス ERMの先進的なアプローチ
- ERM戦略により企業価値と信用格付けを高める方法
- リスクマネジメントとレピュテーション(評判)マネジメントを信用コストと資産コストに関連付ける方法
- 役員への報告 CROの視点
- ERMの効果的な導入・運用のための共通ITツール
- リスクを包括的に管理するための内部監査部門との協働

加者向けウェブサイトには資料がアップロードされており、参加者が自身でダウンロードと印刷を行い、持参することになっている。これは、主催者側で資料を余分に印刷することによる環境への負荷を低減するためだという。ただし、参加するセッションを当日変更した参加者のために、プレゼンテーション資料を印刷できるスペースが設けられている。

筆者は今回、ERM (Enterprise Risk Management)⁴を対象としたセッションを中心に参加した。近年、RIMSではERMに関する研究・教育活動に注力しており、年次大会における全セッション数に占めるERM関連セッションの割合も高い。その中でも、今年は、リスクマネジメント上の意思決定支援や経営者への報告、モニタリングのためのITツールに関する言及が目立ったように感じた。

たとえば、「効果的なERMフレームワークの構築」(Creating an Effective ERM Framework)と題されたセッションでは、ERMにおけるリスクの特定、経営者への報告、モニタリングといった一連のプロセスの構築にあたって、ITの活用が重要となることが説明された。これらのプロセスでは、表計算ソフトなどが用いられることが多いが、近年では、ウェブベースのツールが開発・販売されている。これは、各個別リスクの責任者が、自身のパソコンやスマートフォンを用いて、当該リスクの状況を報告することができるものである。これにより、リスクマネジャーは全社的なリスク状況の把握や経営者への報告をリアルタイムに実施することができる。ただし、こうしたツールは、ERMの円滑な推進のためにもシンプルなものにすることが望ましいとのことであった。

一方、「ERMの工具箱」(ERM Toolbox)というセッションでは、ある大学における5年間にわたるERMへの取り組みの中で、IT企業やコンサルティング会社と開発したツールに関する説明があった。この大学は、約20万人もの学生と多数のキャンパスを抱えるアメリカでも最大規模を誇る総合大学である。同大学では大規模な業績管理システムを用いて全学のリスクをモニタリングしているが、本部が各キャンパスに提供するツールは表計算ソフトで容易に利用できるシンプルなものである。各キャンパスではこれを用いて分析することになるが、簡単に全学の業績管理システムに情報を読み込ませ、全学のリスク状況を把握することができる。これは、ERMを推進する上で、技術、コスト、また業務負荷のいずれの面からも取り組みやすい仕組みを構築しようとした結果である。

いずれのセッションにおいても、組織全体でリスクを把握しておくことは必要であるが、ERMを推進する上で複雑で難解なシステムを用いる必要はない、という考え方で一致していた。このことは、今後の日本におけるERMの普及を考える上で、示唆的なことであった。

⁴ リスクを全社(全組織)規模で経常的に行うプロセスのこと(林良造/損害保険ジャパン/損保ジャパン・リスクマネジメント編、2010、『ケースで学ぶERMの実践』中央経済社)。「全社的なリスクマネジメント」などと訳される。

おわりに

RIMS 年次大会では、展示会やセッションを通じて、リスクマネジメントの最先端に触れることができる。しかし、それだけではなく、他社のリスクマネジャーやコンサルタントらとコネクションを形成することができる点にその魅力を感じる参加者も少なくない。このことは、主催者側でも意識しており、参加者同士がお互いを刺激しあえるよう、レセプションや昼食会など、情報交換を行うためのさまざまな仕掛けを準備している。国や業界の違いを超えてリスクマネジメントに関する取り組みや課題を語り合う中で、新たな発見を得ることができる場として、RIMS 年次大会は格好の場であるといえるだろう。

なお、今回の RIMS 年次大会は、2011 年 5 月 1 日（日）から 5 日（木）の日程で、今年冬季オリンピックが実施されたカナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバーで開催される予定である。

執筆者紹介

寺師 正俊 Masatoshi Terashi

研究開発部 研究員

専門は ERM、コミュニケーション戦略

日本広報学会 正会員、社団法人日本パブリックリレーションズ協会認定 PR プランナー